

## ■ 一般選抜入学試験 A日程（全学部統一） 出題意図（科目別アドバイス） ■

## 【外国語（英語）】

## 《長文総合問題と文法問題への対策》

本学では、すべての外国語試験に「マークセンス方式」が導入されています。和訳・英作文などの「記述式」問題は出題されません。英語の問題形式としては、長文総合問題2題（約70%）、文法問題2題（約30%）が基本です。長文は、平均して600～700語程度となっています。語彙レベルは、高校までの学習範囲を大きく超えることはありませんから、とくに難解な単語を覚える必要はありません。英語の得点が重視される学科においては、制限時間内にすべての問題を解答できるように、時間配分に注意する必要があります。

長文総合問題では、英文全体、さらには段落ごとの内容の確かな理解が要求されます。下線部の意味・用法を問うもの、空所補充、整序英作文問題など、出題内容は多岐にわたります。内容合致問題では、本文に含まれるすべての単語が理解できない場合でも、その英文の周辺や問題文の中にヒントが含まれていることもありますから、熟読して内容を正確に把握し、解答してください。なお、長文の内容は、エッセイ、時事的な話題、文学的あるいは科学的な文章など、多岐にわたります。普段から、さまざまな話題の英文に触れて読んでおくことが望ましいでしょう。

文法問題は、奇をてらわない、極めてオーソドックスな内容が多いため、一般的かつ基本的な英文法に精通していればよいでしょう。年度によっては、会話表現に関する問題が出題されることもあります。総合的に、英語のいろいろな知識を問うもので、取り組みやすい問題になっています。うまく時間配分ができるように、過去問題を丁寧に解いてみましょう。

## 【日本史】

## 《大問1-4》

日本史大問①②③④は、高等学校における「日本史探究」の学習内容の範囲内で、日本史に対する知識・思考力・理解度を確かめることを意図するものである。科目についての出題は、高等学校における教科書を中心とした学習の範囲内としている。まずそれぞれの問題文を読ませることで日本史に対する思考力・理解度を問い、次いで設問1～8において、高等学校における「日本史探究」の学習内容の範囲で得られた日本史に対する知識・思考力・理解度を確かめ、出題全体への解答から、科目に求められる知識・思考力・理解度の到達度合を適正・確実に評価することを目的としている。

## 《大問5※歴史総合》

「歴史総合」では、近現代の世界と日本の展開を俯瞰的に学ぶ当該教科の主旨をふまえ、リード文で近現代の世界が共有する主題を示し、これに関わる世界各地と日本の諸事情を各設問を通じて想起させる。これによって近現代の歴史に関する総合的な理解力を問うことを意図している。

**【世界史】****«大問 1-4»**

世界史のうち大問 1～4 は高等学校「世界史探究」、大問 5 は「歴史総合」の問題で構成されている。全体を通して、高等学校の学習に基づき、思考力、知識と理解力を問うことを意図している。

「世界史探究」は対象地域と時期が広範囲にわたるが、大問ごとに主題と対象時期・地域を分散させて偏りのない世界史の知識と理解力を問うよう工夫している。リード文を読み込むことで理解力、思考力を問い、それぞれの設問は高等学校の学習範囲を超えないことを大原則とし、歴史の理解力、応用的思考力を問う。これらを通じて学力の諸要素の達成度を適切に評価することを意図している。

**«大問 5※歴史総合»**

「歴史総合」では、近現代の世界と日本の展開を俯瞰的に学ぶ当該教科の主旨をふまえ、リード文で近現代の世界が共有する主題を示し、これに関わる世界各地と日本の諸事情を各設問を通じて想起させる。これによって近現代の歴史に関する総合的な理解力を問うことを意図している。

**【公民（政治）】****[2月2日]****«大問 1»**

本問は、主として、インターネット上での表現活動が出来る場が広がる現代において、その場を利用して表現活動を行う者として、表現の自由とそれに関連する諸問題について、適切に理解できているかを問うものである。

**«大問 2»**

国際社会を規定する国際機構の歴史や現状に対する知識や理解を問うことで、大学で学ぶ国際政治とその複雑性を理解するために必要な基本的な視座の有無を確認した。

**[2月3日]****«大問 1»**

憲法及びその解釈、とりわけ憲法 9 条の解釈とその運用の適切な理解のためには、その解釈の背後にありそれを要請する現実をしっかりと踏まえる必要がある。そこで憲法 9 条の解釈とそれに対応する日本の安全保障政策や国際情勢を適切に理解できているかを問う問題を出題した。

**«大問 2»**

昨年世界各地で実施された選挙を入口に、各国の政治体制の特徴や現状について問う出題である。大統領制と議院内閣制の違いは大学で学ぶ政治学の基礎になる。時事 的な問題への関心も深めてほしい。

**[2月4日]****«大問 1»**

日本の民主政の現状を理解するためには、憲法以下の法制度についての正確な知識が前提となる。ここでは、政策執行過程だけでなく、政策決定過程においても重要な役割を果たしている内閣・行政権について出題した

**«大問 2»**

冷戦対立の中で生まれた分断国家について問うことで、冷戦体制の形成や変容、終結と いう現代国際政治の大きな流

れと、今日まで続く東アジアにおける国際的緊張の背景について確認する。

## 【公民（経済）】

「経済」の問題は教科書の内容を中心として、一部、関係する時事問題や資料集、用語集などを利用して作成しています。教科書レベルの出題がほとんどですので、まずは、教科書に書かれている基本的な内容をしっかりと、暗記でなく「理解」するようにしてみてください（これは、大学に入ってから学びにもつながります。）。なかなか日常生活で見かけることのない、経済現象を表す為替相場・国内総生産などの基本的な用語にまず慣れ、正確に理解するようにつとめてください。ただし、特に教科書は、文字数の制限の中で大事なことを短くまとめて説明しています。その一方で、「経済」は日々私たちが生活していく上で必要な財やサービスの生産、流通、消費といったさまざまな活動が含まれています。かつ、それらは日々変化しています。

例えば、ある経済事象がなぜ起こったのかについて考えるためには、そのような現象に至るまでの歴史や制度、関連すると思われるさまざまな現象についての知識を結びつけて理解する必要があります。そのためには、教科書や資料集を利用する際に、その記述について、なぜそのような説明が成り立つのか、どのような歴史や制度の積み重ねの中で起こった現象なのか、関連する現象にどのようなものがあるのか、といった点について考える習慣をつけるようにするとよいと思います。得に、それが数量で記述されている場合には、数値の時系列的な変化やほかの国や地域との違いが生じた理由を考えてみるとよいと思います。教科書や資料集に記載されている簡潔で暫定的な記述から、背後に存在する原因や理由を考えるのは難しいかもしれませんが、日々流れているテレビやインターネットのニュースなどには、教科書の簡潔な記述を補う映像や歴史的な背景、そして最新の展開に関する情報が多く含まれています。それらの情報と教科書や資料集に書かれた記述とを結びつけて考えてみる必要があります。また逆に、ニュースや新聞記事の中で簡潔に紹介されるような内容であっても、教科書や資料集には関連する解説や過去の事例が数多く載っていることもあります。教科書とニュースを結びつけることで、教科書に書かれている基本的な内容の歴史的・現在的な意味を考えてみることを推奨します。

## 【数学①】

### 《教科書を中心とした試験対策を》

「数学Ⅰ」と「数学A」の両科目の分野を、(1)「数と式」、「二次関数」、(2)「場合の数と確率」、「集合」、「データ分析」、(3)「図形と計量」と「図形の性質」というように大きく分けています。問題の範囲に偏りがないように出題しています。

教科書レベルの問題がほとんどであり、教科書の内容を十分に理解することが最も良い試験対策となります。教科書の内容を理解するとともに、標準的な問題集を解くことで、実力がアップすることでしょう。図形の問題や文章題など、教科書には例題が少ない問題も出題していますが、難易度は教科書レベルを想定しています。

A日程ではマークシート方式となります。マークシート方式は本学特有の解答方式ではなく、共通テストなどに準拠しています。

試験対策の勉強をするときはノートにしっかりと解答に至る手順も含めて記述するようにしましょう。例えば、図形に関する問題であれば、大きめに図形を描くなど工夫してみましょ。計算問題では途中経過の式を省略せずに丁寧に書きましょ。丁寧に書くことによってミスが少なくなり、記述式の問題に対応できるようになります。さらに、マークシート方式の問題においても細かいミスが減ることでしょう。

**【数学②】**

経済学部および観光まちづくり学部では、社会課題を多角的に捉え、論理的、客観的、実証的に政策を構想する力が求められます。そのためには、現実の出来事を数量的に表現し、二変数間の関係や変化を読み解く数学的な素養が不可欠です。昨年度の入試問題では、エアコンの温度設定、球を取り出した場合の期待値・分散、日本人の平均身長のような確率的事象、などの現実的なテーマを題材に、指数・対数関数、ベクトル、微分、数列、三角関数、確率分布と統計などの知識を活用して考察する力を評価しました。これによって、政策立案や課題解決策提案の基礎となる数理的思考力を幅広く問うという意図で出題しました。

**【国語（現代の国語・言語文化（近代以降の文章））】**

大学生としてどの専攻でも必要とされる基礎的能力は、論理的思考能力である。それは論理的に書かれた文章を正確に読解し、そこから得られた知見を整理統合して自分の考えや意見を創出し、それを論理的な構成の下に文章として表現するという一連の作業を全て可能とする能力である。現代文科目では人文・社会・自然科学の領域から現代日本語で書かれた論理的な文章を出題し、それを正確に読解する能力を試験する。そこでは必然的に現代の標準的な日本語の知識や運用能力も問われることになる。また選択肢は本文を書き換えており、それを読解して本文の記述に整合させるという作業を通じて、読解力だけではなく思考力も問うことが出題の意図である。

**【国語（古文）】**

古典を読むために必要な文語のきまりや、古典特有の語句の意味・用法・表現について理解しているかを確認しながら、古典の文章が読めているかを確認める問題を設けている。

**【国語（漢文）】**

登場人物の個性や書かれている出来事を理解しているかを問う。漢文の語彙や語法を踏まえて文脈を理解し、簡潔な表現から場面を具体的に想像することも求められる。

**【生物】**

本学の生物の試験は、教科書レベルの知識に基づいた問題がほとんどです。したがって、教科書の内容を十分に理解することが、もっともよい試験対策といえるでしょう。特に、教科書に太字で掲載されている重要語句については、単なる暗記ではなく、その意味をよく理解しておく必要があります。

生物の試験において出題される計算問題の多くは、基本的な四則計算で解けるものばかりです。そのため、基礎的な難易度の計算問題で練習し、正確な立式を行えるようになりましょう。

生物は、理科の他科目と比較して文章や図表の読み取りが多い傾向にあります。そのため、限られた時間内に問題の要点を把握し、情報を整理する必要があります。時間を有効に使うためには、問題全体を見通して、解ける問題から正確に解いていくことも大切です。また、出題範囲は「生物基礎」と「生物」の全範囲であることから、大問では題材となった分野だけでなく関連分野からも出題される可能性があるため、勉強する際は、分野間の関連を意識しつつ教科書を一通り読むことから始めてみましょう。

**【物理】**

本学の物理の試験は、教科書で扱われている基本的な知識や原理に基づいて出題されます。したがって、教科書の内容を深く理解することが、最も効果的な試験対策です。

具体的な勉強方法としては、まず教科書に書かれている基本的な法則や公式を理解し、覚えることが重要です。単に公式を覚えるだけでなく、その公式がどのような物理現象を表しているのか、どのような場合に適用できるのかを理解することが大切です。物理の問題に取り組む際には、問題文の内容を図に描くことで、物理現象を具体的にイメージし、問題の状況を整理しやすくなります。常に図を描きながら考える習慣を身につけましょう。

問題の分量については、試験時間内に全ての問題に解答できるように配慮されています。落ち着いて問題に取り組み、計算ミスなどのケアレスミスをしないように注意してください。出題内容についても、複雑な計算を要する問題は避け、物理現象の本質を理解しているかを問うことを重視しています。教科書の例題や練習問題を中心に、基礎的な問題演習を繰り返し行い、各単元で扱う物理現象の原理を一つひとつ丁寧に理解していくことが大切です。

**【化学】**

本学の化学の試験は、教科書レベルの知識に基づいた問題がほとんどです。したがって、「化学基礎」や「化学」の教科書をよく読み、理解し、知識を身につけることが試験対策として最も重要であることは言うまでもありません。とはいえ、教科書に書かれた事項を丸暗記するのではなく、教科書の演習問題や標準的な難度の問題集を利用し、演習を重ねることで知識の定着を確認し、活用できるようにしましょう。まずは、基本的な形式の設問を完璧に解けるようにすることを目指すとい良いでしょう。

また、計算問題も出題されるため、十分な演習を行い、すばやく正確に計算できるようにすることも重要です。「化学基礎」や「化学」に登場する計算自体は、簡単な四則計算がほとんどですが、焦っていると「自分が計算しているのは何の数値なのか」と道筋を見失ってしまうことが多いのではないのでしょうか。演習をする際には、ただ暗記した公式を用いるのではなく実験や反応式と計算式とを紐づけ、途中計算の意味を意識することで、試験本番でも活かせる力が身につくことでしょう。